

環境分野 2011年全労済地域貢献助成金申請書 全5枚

申請日: 2011年 4月 4日

1. 申請団体の概要

(ふりがな)	ほっかいどうしぜんしけんきゅうかい			
団体名	北海道自然史研究会			
応募分野 (該当するものに ○を付けて下さい)	環境分野			
団体代表者	氏名	役職	年代(例:20代)	職業
	(ふりがな) かわべももき 川辺 百樹	会長	60代	無職
分類 (該当するものに ○を付けて下さい)	1. NPO法人 (2) 任意団体 3. その他の法人()			
設立	1993年	2月	(注)任意団体からNPO法人になった場合、任意団体の設立年月を記入して下さい。	
団体住所	〒004-0051			
	北海道 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内			
	(TEL) 011-892-5306		(FAX) 011-892-5318	
	(ホームページのURL) http://www.cho.co.jp/natural-h/			
申請活動の 主担当者	氏名	役職	年代(例:20代)	職業
	(ふりがな)わたなべおさむ 渡辺 修	事務局長	40代	会社員
団体との 関わり	1. 常勤(有給) 2. 常勤(無給) 3. 非常勤(有給) (4) 非常勤(無給) 5. その他()			
主担当者の 経歴・実績	1997年 さっぽろ自然調査館設立 2000年 さっぽろ自然調査館法人化(現株式会社) 2001年 北海道自然史研究会事務局長就任 学歴等 北海道大学教育学研究科修士課程修了(教育学修士) / 技術士(環境・建設・森林・総監部門) 主な論文等 『みんなでつくろう!花マップ 北海道フラワーソン2007リポート』『知床ライブラリ7 植物Ⅱ』 「釧路湿原の現状と自然再生事業の概要」(2003, 保全生態学研究8)			
主担当者の 連絡先	〒			
	同上			
	(TEL)		(FAX)	
	(E-mail) n-h@cho.co.jp			
スタッフ数	(役員等)14名	(内訳)有給スタッフ:	0名 / ボランティア:	名程度
会員数	157名	(内訳)正会員:	157名 / その他会員:	名
財政状況	(単位は万円)	前々年度(2009年度)決算	前年度(2010年度)決算	今年度(2011年度)予算
	経常収入	0	1.5(予算)	5
	経常支出	0.4	5.0(予算)	5
活動状況	活動対象者			活動日(活動回数)
	活動場所			利用者数(1回平均)

2. 団体の設立背景と主な活動実績

<p>団体設立のきっかけ</p>	<p>「北海道自然史研究会」は、自然史系学芸員を中心に北海道内の自然史に関するネットワークづくりのために1993年に立ち上げられた。北海道の自然に関心があれば誰でも参加可能で、幅広い層の共同による自然史研究の発展とその成果の普及を目指している。</p> <p>学芸員の組織は他にも北海道博物館協会の学芸員部会などがあるが、自然史系に特化したものはなく、また公務員の集まりである博物館協会では活動に制約も多く、具体的な取り組みなどはほとんどなされていなかった。そのため、市井の自然史研究家も含めた幅広いネットワークをつくり、地域単位では難しい広域的な調査研究や普及活動を連携して実施したり、研究発表会を通して互いの取り組みを深化させるために結成した。</p>
<p>団体の活動概要と主な活動実績</p>	<p>年1回程度研究集会を道内各地で開催し、自然史研究の成果の発表、各種環境問題に関する議論、会員間の情報交換を行なっている。また、その地域の自然に関心のある一般の方が参加できるように研究集会をシンポジウム形式とする場合もある。また会員メーリングリストで道内の自然史情報、市民向け行事などの情報共有を図っている。2009年度は、2010年2月27日に札幌市博物館活動センターにおいて集会・講演会を開催し、約100名の会員・市民が参加した。2010年度は、2011年3月13日に北海道庁赤レンガ庁舎にて開催し、約75名の会員・市民が参加し、12本の発表・講演が行なわれた。</p> <p>2010年2月より公式ウェブサイトを立て、11月から北海道内の自然史研究情報を集積する「自然史データベース・アーカイブサイト」を設置し、道内博物館等の研究報告の公開事業を行なっている。</p>

3. 申請活動の内容

<p>活動名</p>	<p>北海道内の学校団体等による自然史研究情報の集積と利活用促進</p>		
<p>助成申請額 (単位:円)</p>	<p>300,000円</p>	<p>総事業費 (単位:円)</p>	
<p>前年度「全労済」からの助成の有無</p>	<p>1. 助成を受けた(金額: 円) ②. 助成を受けていない</p>		
<p>申請活動の目的・背景・地域のニーズ</p>	<p>北海道では、地域の小規模博物館や市民研究グループ、高校生物部などによる地道な取り組みによって、自然環境の研究や保全活動が行なわれてきた。しかしこれらの取り組みは資金・人員不足などにより、現在でも調査研究成果のデジタル化やウェブ公開はほとんど進んでいなかった。当研究会では、2010年度より、博物館の研究報告・紀要を中心に研究成果をデジタル化して集積し、ウェブサイトで公開し、多くの市民が利用できるような取り組みができた。しかし、高校生物部等による自主研究、教員組織による研究成果などは限定配布された印刷物の中に埋もれてしまうものが多く、対象を広げてこれらについてもデジタル化・公開を進め、自然史の調査研究・保全活動の支援につなげたい。</p>		
<p>活動内容</p>	<p>○実施期間 2011年4月～2012年6月(ただし、2011年4月から7月までは連絡・調整などの準備期間)</p> <p>○実施内容 本研究会のネットワークを活用し、高校生物部等による自主研究、教員組織による研究成果などを収録した会誌の発行者(廃刊になっているものについては発行時の関係者)に連絡を取り、デジタル化・ウェブ公開についての協力を取り付ける。協力が得られるときは、データがあるものはデータ変換し、紙原稿のみの場合は断裁して専用スキャナ・ソフトによりデジタル化(透明テキストPDF)し、目次情報をデータベース化する。 このデータをウェブサイトから自由に閲覧・ダウンロードできるようにするとともに、データは開始作成団体にも還元する。 この過程を通じて、発行団体との連携を深め、今後の調査研究の取りまとめの支援や継続的なデジタル化の方策についても検討する。</p> <p>○実施対象物 ・北海道内の高校生物部で取り組まれている調査研究活動をまとめた会誌類 ・北海道生物教育会誌など、生物・地学の教員組織により発行されている会誌類 上記でデジタル化が行なわれておらず、発行者との調整がつけられるもの5～10会誌500論文程度のデータ化を目指す。</p>		

4. 申請活動の実施スケジュール(助成対象期間:2011年7月20日～2012年7月19日)

1. 会誌情報の収集と協力要請(2011年4～7月)
2. データベース・サイト構造の検討(2011年7～8月)
現在のデータベースサイトに追加しての構築を検討する。
3. デジタルデータの変換、紙データのスキャン・データ化(2011年7月～2012年3月)
データがあるものは変換し、紙データは専用スキャナ・ソフトを用いてデジタル化する。
4. データの格納とウェブでの公開(2011年7月～2012年6月)
作成したデータをデータベース化し、サイトから自由に閲覧・ダウンロードできるようにする。

5. 申請活動の実施体制

<p>実施体制</p>	<p>実施に当っては、当研究会の以下のスタッフが情報の収集と関係組織との連携を図る。また北海道内の各地域で活動している学芸員会員の協力で、地域の学校における活動について把握する。</p> <table border="0"> <tr> <td>○渡辺 修(当会事務局、さっぽろ自然調査館)</td> <td>全体総括、サイト・データベース設計</td> </tr> <tr> <td>○丹羽真一(当会事務局、さっぽろ自然調査館)</td> <td>会誌情報収集、サイト検討</td> </tr> <tr> <td>○山崎真実(当会監事、札幌市博物館活動センター)</td> <td>会誌情報収集・協力要請</td> </tr> <tr> <td>○持田 誠(当会理事、帯広百年記念館)</td> <td>会誌情報収集・協力要請</td> </tr> <tr> <td>○齋藤和範(当会理事、旭川大学地域研究所)</td> <td>会誌情報収集・協力要請</td> </tr> <tr> <td>○川辺百樹(当会会長、上士幌町ひがし大雪博物館前館長)</td> <td>会誌情報収集・協力要請</td> </tr> </table> <p>連携を予定している組織...北海道生物教育会、北海道昆虫同好会、北海道教育大学など</p>	○渡辺 修(当会事務局、さっぽろ自然調査館)	全体総括、サイト・データベース設計	○丹羽真一(当会事務局、さっぽろ自然調査館)	会誌情報収集、サイト検討	○山崎真実(当会監事、札幌市博物館活動センター)	会誌情報収集・協力要請	○持田 誠(当会理事、帯広百年記念館)	会誌情報収集・協力要請	○齋藤和範(当会理事、旭川大学地域研究所)	会誌情報収集・協力要請	○川辺百樹(当会会長、上士幌町ひがし大雪博物館前館長)	会誌情報収集・協力要請
○渡辺 修(当会事務局、さっぽろ自然調査館)	全体総括、サイト・データベース設計												
○丹羽真一(当会事務局、さっぽろ自然調査館)	会誌情報収集、サイト検討												
○山崎真実(当会監事、札幌市博物館活動センター)	会誌情報収集・協力要請												
○持田 誠(当会理事、帯広百年記念館)	会誌情報収集・協力要請												
○齋藤和範(当会理事、旭川大学地域研究所)	会誌情報収集・協力要請												
○川辺百樹(当会会長、上士幌町ひがし大雪博物館前館長)	会誌情報収集・協力要請												
<p>地域の人々が関わり実施する事業であることをアピールして下さい。</p>	<p>当会には北海道内の自然史系博物館・施設のほとんどのスタッフが参加しており、各地域の学校や市民団体との関わりも持っている。そのつながりを活かして、地域の自然環境の調査研究に取り組む学校団体とのネットワークを強化し、その活動の支援の一環として研究成果のデジタル化・ウェブ公開を進められると考えている。</p>												

6. 活動により見込まれる成果・効果

<p>①環境保全への影響</p>	<p>過去に取り組まれた調査・研究をデータベース化し、多くの市民が参照できるようにすることで、将来それに取り組もうとする市民のレベルアップの場となり、成果を発表する場を生み出すことにつながる。地域の自然環境の情報収集は、行政機関や大学等が担うものだけでは不十分で市民レベルでの取り組みが広がることが重要と考えている。それらの情報が集積され、調査研究に携わる市民が増えることで、地域の環境保全の基礎が大きく形づくられることを期待している。</p>
<p>②地域コミュニティへの影響</p>	<p>地域の学校団体や教員が参加する市民グループなどでは貴重な自然情報が収集されているが、それを集積し、広く成果を公開する場が今までなかった。デジタル化やサイトの作成は各団体でのニーズは高いが、資金や担い手の不在が制約として大きいため、今回はその技術的支援をしつつ、情報の集積を図りたい。また、このような形で成果が公開されることで、継続的に活動に取り組む意欲が生まれ、他の学校や組織での取り組みを参考にして、さらに調査研究や保全活動が活発化したりすることを期待している。</p>
<p>③助成を受けることで、活動または団体がどのように充実するか</p>	<p>これまで埋もれてきた自然史情報をデジタル化し、ウェブ公開が行なわれることにより、本会の会員はもちろん、だれもがこれらの成果を利用することが可能になる。多岐にわたる自然史情報を一箇所に集めることで、情報の使いやすさが向上するだけでなく、北海道の自然史研究のネットワーク化、特に世代や職業を超えた人的交流がさらに進むことが期待される。自然史情報の利用者を従来よりも広く取り込むことで、自然史研究の裾野を広げることができると期待される。</p>

7. 今後の展望

申請活動の 2・3年後の 展望	<p>データベースを搭載したサイトは長期的に運用しなければ意味が無い。長期的に集積した情報を掲載し、市民(利用者)からの要望や利用状況をモニタリングして、改善に生かす。</p> <p>今回の申請期間でのデジタル化と公開は500論文程度を目指しているが、北海道内の全ての会誌を収録することは難しい。そのため、本事業で確立した体制と手法を生かしつつ、継続的な集積を考えている。また、それと並行して、新たな論文の投稿を受けて、独自の情報・論文の集積も行ない、過去の情報を上回る情報の集積を目指したい。</p>
-----------------------	---

8. 申請活動の予算書

①収入の部(単位:円)

区分	内 容	金額
申請助成金	全労済地域貢献助成金	300,000
自己資金	繰越金、会員の寄付金など	65,000
寄付金		
他の助成金		
その他		
収入合計		365,000

②支出の部(単位:円)

費目	摘要(内容、算出根拠)	金額	助成金充当額
借上費用	デジタル化作業、サイト製作・管理に必要なパソコン・専門ソフトウェア・サーバのレンタル料(@3,000x12ヶ月)	36,000	30,000
印刷製本費	説明資料・配布資料の出力費(@50x10部x13回)	6,500	
旅費交通費	データベース作成のための打ち合わせ会議費用(市内3名x3回x@500、旭川往復@10160x2回、上士幌往復@17380x2回、帯広往復@14920x2回)、宿泊費(@8000x4泊)	121,420	90,000
通信運搬費	打ち合わせ・連絡用の郵送費など(@80x20回)	1,600	
人件費	データ入力・会誌デジタル化(臨時アルバイト20日x@6,500)、サイト製作・管理の補助(10日x@6,500)	195,000	180,000
その他	封筒など雑費	4,480	
支出合計		365,000	300,000

9. 2010年助成活動の状況 (※本項目は2010年に全労済から助成を受けた団体のみご記入下さい)

助成を受けた活動名	※2010年の助成申請書に記載した「活動名」を記入下さい。				
助成を受けた金額	円		※前年度助成を受けた区分に○を付けて下さい。		
			環境分野 (上限30万円)	子ども分野 (上限30万円)	
助成を受けた活動の進捗状況	完了・未完了いずれか選択し、 (○を付けて)完了していれば 「完了日」を記入し、 未完了の場合は 「完了予定日」を記入ください	完了	完了日	未完了	完了予定日
	助成対象活動の概要 (2010年助成申請内容を簡潔に要約して記載下さい)	助成対象活動の進捗状況 (進捗状況について報告して下さい)			
活動により見込まれる効果、成果について	※申請当初見込んだ効果、成果について、実際にどうであったかについて記述して下さい。 (未完了の場合は、現状の進捗状況の中で可能な範囲で記載下さい)				

2011年全労済地域貢献助成事業

<応募書類提出時のチェックリスト>

- 1) 助成金申請書(所定書式、5枚) 2部
- 2) 定款、会則等の規程 2部
- 3) 役員名簿 2部
- 4) 決算書(直近1年分) 2部
- 5) アンケート 1部

※ご提出にあたり特にご留意いただきたい点

応募書類をご提出の際には特に以下の点にご留意願います。

- ① 応募書類の印刷は、必ず“全て片面刷り”でお願いします。
- ② 応募書類を綴じる際は、“ホチキス止めをしないで”必ずクリップ止め
でお願いします。
- ③ FAX、電子メール、持参による提出は一切受付しておりませんので、
お願いします。
- ④ 申請書の P.5「2010 年助成活動の状況」については、2010 年に全
労済の助成を受けられた団体のみご提出下さい。

2011年全労済地域貢献助成事業アンケート

今後全労済が社会貢献活動をすすめるにあたって、参考にさせていただきますのでご協力下さい。

1. 申請活動は環境分野、子ども分野のどちらですか？

該当するものに○をつけて下さい。

() 環境分野

() 子ども分野

2. どのようにして全労済地域貢献助成事業をお知りになりましたか？

該当するものに○をつけて下さい。また媒体名等についてもご記入下さい。

() 全労済窓口、全労済関係者からの紹介

() 知人の紹介 ()

() ウェブサイト ()

() メールマガジン ()

() 新聞 ()

() 雑誌、情報誌等 ()

() 地域の支援センター等 ()

() その他 ()

3. 貴団体の地域では、どのような防災(減災)に関する活動がありますか。(参加は問いません)

[]

4. 本助成プログラムについて、ご意見・ご要望があればご記入下さい。

[]

以上

ご協力ありがとうございました。